

児童会・生徒会による いじめ防止の取組事例集



小坂町立小坂小学校



にかほ市立平沢小学校



由利本荘市立大内中学校



大仙市立協和中学校



県立六郷高等学校



県立ゆり支援学校

「いじめは人間として絶対に許されないもの」との意識を、学校教育全体を通じて、児童生徒一人一人に徹底し、いじめを許さない学校づくり・学級づくりを進めるためには、児童会・生徒会活動などにおける共感的な人間関係づくりや自発性・自治力の育成が大切です。

秋田県教育委員会では、いじめ問題に対応する際の参考資料として、県内の小・中学校、義務教育学校、高等学校、特別支援学校で、児童会・生徒会がいじめ問題に正面から向き合い、その根絶や未然防止に向けて全力で取り組んでいる様々な実践例を収集し、取組事例集を作成いたしました。

県内全ての学校で、児童生徒が主体的にいじめ問題に向き合う取組が一層充実するよう、本事例集を活用していただければ幸いです。

目 次

【小学校】

・小坂町立小坂小学校	1
・大館市立成章小学校	2
・潟上市立出戸小学校	3
・にかほ市立平沢小学校	4
・湯沢市立皆瀬小学校	5
・羽後町立西馬音内小学校	6

【中学校】

・北秋田市立鷹巣中学校	7
・能代市立能代東中学校	8
・秋田市立山王中学校	9
・由利本荘市立大内中学校	10
・大仙市立協和中学校	11
・美郷町立美郷中学校	12

【高等学校】

・県立大曲工業高等学校	13
・県立六郷高等学校	14

【特別支援学校】

・県立ゆり支援学校	15
-----------	----

【小学校】

(小学校低学年用)

秋田わか杉っ子 いじめゼロに向けた五か条

- 一 私たちは、絶対にいじめをしません。
- 二 私たちは、いじめを見すごさず、みんなで力を合わせていじめをなくします。
- 三 私たちは、思いやりの心で、相手の気持ちを感ぜたり考えたりします。
- 四 私たちは、一人一人のよいところをたくさん見つけ、自分も相手も大切にします。
- 五 私たちは、いろいろな人たちとなかよくし、みんなを支える一人になります。

(小学校中・高学年用)

秋田わか杉っ子 いじめゼロに向けた五か条

- 一 私たちは、いじめが人権をそこなう、許されない行いであることを理解し、絶対にいじめをしません。
- 二 私たちは、いじめを見すごさず、友達や信頼できる人と力を合わせて、いじめがなくなるよう行動します。
- 三 私たちは、思いやりの心を大切にし、友達の喜びや心の痛みを、その人の気持ちになつて感ぜたり考えたりします。
- 四 私たちは、一人一人のよいところをたくさん見つけ、自分も相手もかけがえのない存在として大切にします。
- 五 私たちは、生活の仕方や文化、ものの考え方などにちがいがあっても進んで交流し、みんなを支える一人になります。

学 校 名	小坂町立小坂小学校	児童生徒数	139人	学級数	8
-------	-----------	-------	------	-----	---

1 活動名

小中合同あかしあ集会

2 活動の趣旨

本校は、小中一貫教育校として今年で10年目を迎えた。小坂小・中学校には、小学生も中学生も同じ学校内で仲良く活動し、いじめのない学校を目指すための“小坂ピース宣言”がある。それを基に小学生と中学生が交流し、絆を深めていく集会として小中合同あかしあ集会を実施している。昨年度は、小学校の運営委員会、中学校の生徒会がそれぞれ企画したゲームを行い、更に一人一人が作った輪飾りを一つの輪につなげるという「きずなの輪飾り」を実施した。また、今年度は小中合同あかしあ集会の実施と関連させて、生活・学習委員会でいじめ防止標語を全校から募集した。集まった標語作品の中から優秀な作品を選び、集会内で紹介する取組を行った。

3 活動の概要

- (1) 校内放送にて、“小坂ピース宣言”を全校で確認し、全学級に掲示（6月上旬）
- (2) 生活・学習委員会でいじめ防止標語を募集、優秀作品の選定（11月上旬）
- (3) いじめ防止標語を体育館前廊下（なかよしロード）に掲示（12月上旬）
- (4) 運営委員会主体の小中合同あかしあ集会開催（1月23日）
- (5) 小中合同あかしあ集会で作成した「きずなの輪飾り」を玄関前に展示（1月23日～3月下旬）

4 これまでの成果と考えられること

今年度は、新しい活動として“小坂ピース宣言”を基にした標語づくりを行った。学年の発達段階に応じて“小坂ピース宣言”を理解し、小学生も中学生もいじめをなくして協力することの大切さを一人一人考えることができた。

また、集会で作成する「きずなの輪飾り」について、昨年度は中学生が輪の外にいたという反省点を生かし、今年度は児童生徒全員が一つの輪になって一体感を感じることができるよう計画している。さらに、その飾りを玄関に掲示することによって、登校時も下校時もそれを見ると楽しい思い出として振り返ることができるようにする。

このような活動が、小学生は中学生に憧れを抱き、中学生は小学生の気持ちを考え優しい気持ちで接する機会となった。そして、今後の様々な交流活動において、お互いのよさを認め合い、楽しく自治的なものとなるように期待している。



【R3 あかしあ集会の様子】

5 今後の課題

“小坂ピース宣言”が児童生徒にしっかりと浸透していくように、学年目標や個人目標を設定し、いじめ防止の強調週間などで具体的に実践できるような手立てを講じていきたい。また、今年度は新型コロナウイルス感染警戒レベル2以上の期間が長く、小・中で直接関わる行事も限られていた。今後もこのような状況が続くことを想定し、児童生徒で直接関わらなくても交流を深めることができるような工夫・支援を模索していく。

学 校 名	大館市立成章小学校	児童生徒数	73人	学級数	8
-------	-----------	-------	-----	-----	---

1 活動名

**自分の力でメディアコントロール
～ネット依存、ネットトラブル、ネットいじめをゼロに！～**

2 活動の趣旨

本校は児童会テーマ「いつでもひかるあいさつで 最高の笑顔を作り出そう」のもと、よりよい学校生活を送るために、児童が自主的に考え、全校で取り組む児童会活動を目指している。

本校には、インターネット上のコミュニケーションアプリや掲示板をよく利用している児童が多数見られる。そこで、みんなが最高の笑顔で生活するために、ネット依存、ネットトラブル、ネットいじめがゼロになるよう、上手にメディアを利用する方法を児童会で考え、成章中学校とも連携して取り組んだ。

3 活動の概要

(1) メディアに関わる問題や正しい使い方を学ぶ

大館警察署員や学校医を講師に招き、ネット依存やネットいじめなどの問題、心身への影響、正しいメディアの使い方などについて学習した。

(2) 上手なメディアの利用方法を考える～Part1

小・中学校の代表者が、委員会の活動で取り組めるメディアコントロールについてWeb会議で話し合い、会議の決定事項を全校で実施した。

(3) 上手なメディアの利用方法を考える～Part2

小・中学校の児童会や生徒会が、学校全体で取り組むメディアコントロールについて話し合った。自分たちのライフスタイルを踏まえ、実行可能なメディアの使い方を「メディアプラン」にまとめた。

(4) 全校で取り組むメディアコントロール

小・中学校で決定したメディアプランを実行するとともに、「メディアコントロール週間」を実施した。事前に児童会や生徒会で作成したチラシを小・中学校で配付し、児童生徒の意識を高めた。



【メディア学習会の様子】

＜成章小学校メディアプラン＞

- 1 時間を守ろう
 - ・平日は2時間をめやすに
- 2 相手の気持ちを考えて
 - ・インターネットの世界でもルールを守る
 - ・個人情報をのせない
 - ・インターネットに悪口を書かない
 - ・乱暴な言葉をつかわない
- 3 勝手にお金を使わない
 - ・課金、買い物、アプリのダウンロードは家の人とする

4 これまでの成果と考えられること

よりよいメディア利用の方法を児童が考え、全校に呼び掛け、実行したことで、自分たちの問題として捉え、目標達成を意識して取り組んだ児童が前年度より増えた。

小・中学校が連携して取り組んだことで、成章中学校区全体の活動になり、保護者の理解と協力が得られやすかった。また、小・中学校が一緒に学習会に参加したり話し合ったりしたことで、互いに刺激になり、意欲が高まった。

今年度のスマートフォン等、インターネット利用実態調査で、インターネットやSNS等のトラブル、被害に遭った児童が見られなかったことも成果の一つと捉えている。

5 今後の課題

本校では、自分でメディアコントロールができる児童を目標に取組を行ってきた。児童はネットいじめやネットトラブルに対して高い意識をもって未然防止に努めているが、ネットの利用時間を制限することが困難な児童も少なくない。今後は小・中・家庭の連携だけでなく、保育園とも連携を図り、早い段階からの対策を考える必要がある。

学 校 名	潟上市立出戸小学校	児童生徒数	192人	学級数	9
-------	-----------	-------	------	-----	---

1 活動名 「やさしさあふれる出戸っ子192人 夢に向かってワンチーム」

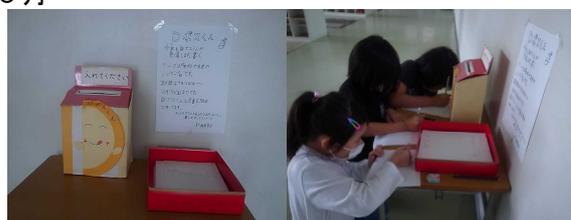
2 活動の趣旨

校訓「太陽のように明るく 松のようにたくましく 海のように心豊かに」を合言葉に、特に今年度は「思いやりのある 優しい子ども」を目指していくことを職員も子どもも意識できるよう折に触れ話題にしている。児童会では、「やさしさあふれる出戸っ子192人 夢に向かってワンチーム」をテーマに、自分たちで互いを認め合い、誰もが楽しい学校をつくっていかうと、様々な活動に取り組んでいる。このような活動を通して、自己肯定感や自己有用感を醸成し、いじめのない学校を目指している。

3 活動の概要

(1) 出戸小「Dポストくん」(児童委員会)：9月～10月

学校のよさ、友達のよさを見つめる機会として、計画委員会で企画した取組である。今年度の委員は、テーマを「学校のよいところ」「友達のよいところ」「学校をよくするために」の三つに設定し、それぞれに期間を設けて一定期間継続できるよう工夫した。だれでも自由に書いてポストに入れられるようにし、集まった「よさ」を昼の放送で全校に紹介した。



【Dポストくん到手紙を入れる子どもたち】

(2) グリーンメイト活動(縦割り班遊び)：年7回

学年の枠を超えた縦割りによるメンバー構成で活動する。高学年の児童が中心となって、みんなが楽しめることを大事にして話し合い、内容を決めている。回を重ねるごとに、メンバーの様子をもとにして次回はどういう遊びがよいか、相手の思いを汲んで内容を工夫するようになった。計画から実践まで子ども主体の活動になっている。



【低学年にルールを教える6年生】

(3) ボランティア募集(子どもの発想と思いを生かして)：11月



【自分から参加して働く子どもたち】

清掃活動中に気付いた敷地内の落ち葉。いつもだれかが片付けてくれていたことに気付いた子どもたちが、全校に呼び掛けることを考えた。ポスターを作成し、ボランティアを募集したところ、業間や昼休みにいろいろな学年が集まってくれたことに喜びと手応えを感じ、次回への意欲につながっている。

実際の活動では、普段の清掃に向かう姿とは一味違い、意欲的・自発的で、みんなで働くことを楽しんでいる様子が見られた。自分の意志で参加したことも活動の支えになっている。

4 これまでの成果と考えられること

学校行事や特別活動等を通して、自分たちの手で楽しい学校にしていくためには、「思いやり」が基盤になることを、全校や学級で繰り返し伝えてきたことが子どもたちに浸透してきた。自己肯定感や自己有用感の高まりにつながるよう、既存の活動ややり方を大事にしつつ、新たなことに挑もうとする「子どもの発想と思い」「子どもの主体性」を全職員が尊重し、支えるようにした。その結果、自らの思いを表現したり、自信をもって計画・実行したりするなど、みんなと一緒に活動を楽しむ姿が見られるようになってきている。

5 今後の課題

引き続き、これまでの活動や内容にとらわれず、自分たちでできたという体験の積み重ねが実感できるよう、全職員でバックアップする体制が重要と考える。

一方で、他者を傷付ける言動をとる子どももいることから、言葉の大切さを伝えながら、望ましい人との関わり方につながるような活動を目指していきたい。

学 校 名	にかほ市立平沢小学校	児童生徒数	296人	学級数	13
-------	------------	-------	------	-----	----

1 活動名

あったか言葉運動

2 活動の趣旨

本校の児童会は、常時活動である「あいさつ運動」の実施、「平沢しおかぜっ子いじめゼロ五箇条」の呼び掛けに加え、今年度新たに「あったか言葉運動」に取り組んだ。これらの活動により、児童一人一人がいじめに向き合ってほしいと考えた。

3 活動の概要

(1) 平沢しおかぜっ子いじめゼロ五箇条

昨年度まで各学年朝の会で「平沢しおかぜっ子いじめゼロ五箇条」（1いじめをしません。2いじめを許しません。3やさしい心になるようがんばります。4一人一人のよいところを大切にします。5いろいろなちがいのある人ともなかよくします。）を復唱していたが、コロナ禍のため年度当初は見合わせていた。それを児童会本部委員会で話し合い、復活することとして、各学年に提案した。活動を再開したことにより、児童一人一人に、いじめはいけないと再認識させることができた。

(2) あいさつ運動

月・水・金の朝、コモンホール（玄関）に児童会本部委員が立ち、全校児童と「おはようございます」と互いに声を掛け合う活動を長年行っている。昼の放送で、「今日のあいさつキングとクイーン」と名付け、その日最もあいさつのよかった男女一人ずつを理由を添えて発表している。放送を聞いている学級では誰の名前が呼ばれるかを楽しみにしており、自分もあいさつキングやクイーンになりたいとあいさつを意欲的に頑張る姿が見られる。校内はもちろん、校外でも自分からあいさつする子どもが多く、地域の方々から、ほめていただいたり喜んでいただいたりしている。

(3) あったか言葉運動

友達の心を傷付けるような言葉遣いをする子どもが多いと職員間で話し合われた。担当職員が児童会に、みんなでこのことを考えてほしいと提案した。これを受け本部委員会で話し合いが行われ、ちくちく言葉は使わずに、あたたかい言葉を使うことを推進するため、「あったか言葉運動」をすることが決まった。全校児童が「あたたかい言葉を掛けてもらったうれしかったことと、掛けてくれた人」を短い手紙に書き、「あったかポスト」に入れることにした。

12月には各学級から1名ずつ昼の放送で紹介し、あたたかい言葉を掛けてくれた子ども全員に、この手紙を返す計画を立てている。



【ポストにあったか言葉を入れる子どもたち】

4 これまでの成果と考えられること

児童会本部委員が声を掛けてくれたおかげで、元気のないまま登校した子どもが元気になったり、教室で子ども同士の明るいあいさつが聞こえたりと、子どもたちの明るさの源になっている。この雰囲気がいじめの温床を減少させていると思われる。また、あたたかい言葉を使うと、相手も本人もあたたかい気持ちになったという声も多く聞かれた。

本校で年に2回実施している「いじめ実態調査」の結果、前期に比べ後期のいじめ認知件数が大幅に減った。また、いじめを見て見ぬふりをせず、声を掛けてあげる子どもが増えたことも結果からうかがえた。

5 今後の課題

児童会本部委員会の活動に関わらず大事なことは、一人一人が常に「いじめを許さない」強い気持ちをもつことと、友達にもいじめはいけないと働き掛けることである。そのような心が醸成されることを願っている。

学 校 名	湯沢市立皆瀬小学校	児童生徒数	62人	学級数	8
-------	-----------	-------	-----	-----	---

1 活動名

異学年交流でリーダーシップとフォロワーシップを育む

2 活動の趣旨

本校では、小規模校のよさを生かし、縦割り班での活動や中学生との交流を通して、積極的な異学年交流を行っている。上学年は「チームや個人に対して行動を促すリーダーシップ」、下学年は「積極的かつ主体的にリーダーに働きかけ、支援するフォロワーシップ」を身に付けることを目指している。

3 活動の概要

(1) 運営委員会と生活委員会によるあいさつ運動

毎朝、運営委員会と生活委員会のメンバーが各学年の教室を回って元気なあいさつを呼びかけている。その際に、「おじぎあいさつ15人」、「一言プラスあいさつ10人」など、その日のあいさつの目標を伝え、全校児童が同じ目標に向かってあいさつ運動に取り組むことができるようにしている。また、隣接する皆瀬中学校の生徒が、小学校にあいさつ運動に来てくれることもあり、小学生の手本となっている。

(2) 異学年交流による絆づくり

① 縦割りなかよし集会（5月）

入学直後の1年生との交流を図るとともに、新しい縦割り班への所属感をもち、同じ班のメンバーとの仲を深めることができるように、集会活動を行った。ゲームやクイズ、自己紹介などの活動を取り入れることで、1年生だけでなく他の学年の児童も、楽しみながら交流することができた。

② 児童主体の運動会（5月）

運動会で行う種目や走順などについては教師主体ではなく児童が話し合って決めた。当日も運営委員会、保健体育委員会が中心となって運動会を運営した。本番に向けて事前に行った色別グループのスローガン発表の練習では、上学年が優しく、振り付けや声を出すタイミングを教えていた。



【とことんフェスティバルの様子】

③ とことんフェスティバル（9月）

縦割り班のメンバーに、中学生も加わり、児童会や生徒会が中心となって企画したゲームやクイズ、よさこい体験などを行い、小中の絆を一層深めた。活動後には、お世話になった中学生に手紙を書く活動を行った。

4 これまでの成果と考えられること

積極的な異学年交流を行ってきた結果、休み時間には、学年に関係なく一緒に体を動かして遊ぶ姿が多く見られるようになった。上学年の児童は、中学生との関わりからもリーダーシップを学び、下学年の児童に掃除の仕方を優しく教えたり、集会活動では下学年の面倒を見たりすることができるようになった。下学年の児童は、お兄さん・お姉さんのあいさつをする姿や縦割り班をまとめる姿に憧れをもち、自分もそうなりたいという気持ちをもつことができた。

5 今後の課題

自分とは異なる立場の人と関わりをもつことで、思いやりの心も育まれているが、年々児童数が減少しており、様々な人と関わり合っただり、異学年が協力して活動したりしていく交流の場の設定を工夫していく必要がある。

今後も、児童会活動を通して、児童が達成感や自己有用感をより一層感じることができるよう、自治的な活動を支援していきたい。

学 校 名	羽後町立西馬音内小学校	児童生徒数	246人	学級数	12
-------	-------------	-------	------	-----	----

1 活動名 「みんなが笑顔で安心して生活できる学校」を目指して

2 活動の趣旨

本校の児童会テーマ「元気なあいさつ 笑顔とやさしさあふれる おれんじっこ」のもと、自発的・自治的な活動を促し、児童自ら取り組む「絆づくり」を実践している。また、様々な活動を通じて互いに認め合うことで児童が自己有用感を高められるような魅力ある学校づくりを目指している。

3 活動の概要

(1) 縦割り班活動

① 縦割り清掃（常時活動）

始めに、活動班ごとに自己紹介をするミニ集会を行い、協力する態度や活動班への所属意識を高めた。実際の活動では、機会を捉えて掃き方や拭き方などを上学年から下学年に教えて手本を見せるようにし、反省会では司会やリーダーから今日のナンバー1を発表し称える場面を設けている。

② ミニ駅伝集会（10月）【体育委員会】

縦割り班でチームを編成し、10区間の周回コースで順位を競い合う集会を実施した。高学年を中心に走順を考え、異学年交流のよさを生かすために、高学年と低学年が一緒に走るペアランの区間を設けた。互いに助け合ったり励まし合ったりすることで、異学年での「絆づくり」や高学年児童の「自己有用感」、「リーダーの意識」の高まりが見られた。

③ スタンプラリー集会（12月）【運営委員会】

ゲーム、クイズの準備や進行等の運営を行うことを通して、5、6年生に高学年としての自覚をもたせるとともに、下級生に喜んでもらえることに対する喜びを味わわせ、自己有用感を高めることをねらいとしている活動である。また、企画・運営を進め、自分たちのお世話をしてくれる5、6年生に対して1～4年生が感謝や憧れの気持ちをもてるようにするとともに、友達との関わりを大切にしながら楽しく活動することにより、みんなで協力しようとする気持ちをもたせることができている。



【にこにこフリフリ運動】

(2) にこにこフリフリ運動【運営委員会】

学校の友達や先生方、家族、地域の人たちを笑顔にするために笑顔で手を振ってあいさつをするという取組である。児童に、地域の方からの声を紹介したり、頑張りを賞賛するシールを配布したりするなど児童自身が取組の成果を実感できるようにしている。児童一人一人の自己有用感の向上が、この運動の盛り上がりにつながっている。

4 これまでの成果と考えられること

各活動を児童会主体の自治的活動とすることが、児童の自己有用感や自尊感情の醸成につながっていると感じる。また、児童が互いのよさを認め合うことができる場を意図的に設定することで、児童の「絆づくり」が進み、学年が上がるにつれ、折り合いを付けて行動を選択できる児童が増えてきている。そして、それが児童からのいじめの訴えが減ってきていることにつながっていると考える。

5 今後の課題

- ・コロナ禍のため縦割り活動が難しい状況が依然として続いている。これまでの活動を見直す中で改めてねらいを明確にし、児童の思いに寄り添った取組を考えていく必要がある。
- ・いじめの積極的な認知を進める中でもいじめの認知件数は減ってきているが、日常生活での些細なトラブルは依然少なくない。より一層相手を思いやる気持ちの醸成を図っていきたいと考えている。

【中学校】

(中・高校生用)

秋田わか杉っ子 いじめゼロに向けた五か条

- 一 私たちは、いじめが人権を侵害する許されない行為であることを理解し、絶対にいじめを行いません。
- 二 私たちは、いじめを見過ごさず、友人や信頼できる人と力を合わせて、いじめの根絶に向けて行動します。
- 三 私たちは、思いやりの心を大切にし、他人の喜びや心の痛みをその人の身になって感じたり考えたりします。
- 四 私たちは、一人一人の違いを認め、自分も相手もかけがえない存在として尊重します。
- 五 私たちは、生活習慣や文化、価値観の異なる人々とも積極的に交流し、社会を支える一人になります。

学 校 名	北秋田市立鷹巣中学校	児童生徒数	371人	学級数	17
-------	------------	-------	------	-----	----

1 活動名

生徒会による「よい人発見報告」の実施

2 活動の趣旨

今年度生徒会活動では、いじめゼロを目指し、生徒会テーマ「交流～コミュニケーションでつながる全校の輪～」の下、様々な場面でコミュニケーションを大切にし、お互いを認め合いながら学級・学年・全校の輪を広げていくことを目標にした。この目標を実現するための活動の一つとして、「よい人発見報告」を実施した。この活動は、思いやりのある行動をしている生徒を生徒目線で紹介し合い、生徒同士が認め合う場面を設定することで、いじめを未然に防ぐ雰囲気を醸成することを目指している。

3 活動の概要

5月に実施した生徒総会で、いじめゼロの取組に対する考えやアイデアを全校で意見交換し、その後生徒会執行部から「よい人発見報告」について活動の趣旨と活動内容を提案した。2か月に1回実施し、学級で「よい行い」をしていた生徒の名前とその行動を用紙に記入し、生徒会が集約して、昼の放送や生徒会報で紹介した。体育祭や学校祭などの学校行事での内容だけではなく、日常の些細な出来事でも生徒目線で褒め合ったり認め合ったりすることができた。

4 これまでの成果と考えられること

「あいさつ運動」やいじめゼロに向けて生徒総会で話し合い、各学年でスローガンを決めて玄関に掲示するなどのこれまでの取組に加え、今年度新たに「よい人発見報告」を生徒会が主体となって進めた。生徒目線でよい行動をした友達を積極的に見つけようとすることで、他者に対する理解を深めたり、感謝の気持ちをもったりするきっかけづくりになった。また、紹介された生徒に対する温かい声掛けや称賛の声が生徒同士で行われる様子も見られ、いじめを未然に防ぐ雰囲気を醸成することにつながっていると感じた。



【生徒会テーマを発表し、「よい人発見報告」を提案】

今年度初めての取組であったため、実施時期や報告の仕方など改善するところは多々あったが、それも含めて生徒会で話し合いながら主体的に活動を進められたことで、生徒自身がお互いを認め合える学校づくりを通して、いじめ防止に真剣に取り組んでいることが感じられた。

5 今後の課題

今後も生徒が主体となり、自他を認めることができる活動を継続させていきたい。また、コロナ禍で学級や学年の枠を超えた縦割りの活動や、地域との交流の場が制限されているため、その中でできる交流を通して、認め合い支え合いながら、全校一丸となって取り組んでいくことが必要だと感じた。

学 校 名	能代市立能代東中学校	児童生徒数	99人	学級数	4
-------	------------	-------	-----	-----	---

1 活動名 全校生徒によるいじめ防止集会の実施（タブレット端末を活用したいじめ防止集会）

2 活動の趣旨

本校では、生徒同士による意見交換を通して、いじめに対して自分がどのように向き合うのかを考え、全校生徒でいじめ防止に向けた気持ちを深めることをねらいとして、全校委員会（各学級の正・副級長で組織）が中心となっていじめ防止集会を実施している。

3 活動の概要

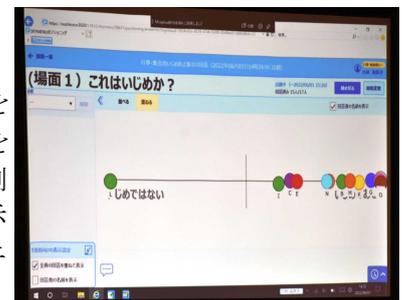
(1) 活動の時期

年度当初にいじめ防止の気持ちを確認しておくために、毎年5月頃にいじめ防止集会を開いている。生徒会主催の活動であるため、生徒会の組織が確立し、生徒総会で活動が承認された直後という点からも5月開催が望ましい。また縦割り班の顔合わせもでき、縦割り掃除等その後の活動がスムーズになる。

(2) 活動内容

① 動画を基にした「これはいじめか？」の話合い

全校委員が日常生活を想起させる動画（場面1）いたずらで筆入れを隠す事例、場面2）挨拶しながら叩いたりベタベタしたりする事例）を作り、その行動はいじめになるかどうかについて考えた。始めは縦割り班ごとに話し合い、その結果をタブレットのポジショニングで提示した。次にその結果を見ながら全校で意見を出し合った。ポジショニングにより立場がはっきりしているため、意見交換がしやすかった。



【実際に提示されたポジショニング】

② 能代東中いじめ防止のキーワード作り

能代東中学校でいじめが起こらないようにするために必要なことは何かについて考えた。縦割り班ごとに話し合い、キーワードをタブレットで提示しながら全体で発表し合った。今年度出されたキーワードは次の通りである。

- 相手の気持ちを考える ○傍観者にならない ○いたずらをいじめと自覚する ○思いやり
- 勇気「やめて」「やめようよ」 ○行動する前に考える ○お互いの気持ちを尊重する ○平等
- 見て見ぬふりをしない ○自分の気持ちを伝える ○適切な距離感 ○コミュニケーション 等

③ 「能代東中学校いじめ0宣言」に向けた標語作り

集会後、一人一人が「能代東中学校いじめ0宣言」に向けた標語作りに取り組んだ。各学級に全員の標語を載せた掲示を貼り、後日代表作を選んだ。各学年から選ばれた標語を全校委員会だよりで紹介するとともに、色画用紙に印刷して校内に掲示した。選ばれた生徒は、とても喜んでいて。

- 生徒の作品
- 見て見ぬふり ダメ 絶対 いじめだよ
 - 互いを思い合い いじめを起こさない 起こさせない
 - STOP! 本当にその言葉 発していいですか・・・?

4 これまでの成果と考えられること

生徒が出演して作った動画はより身近に感じられたらしく、日常の何気ない行動の中にもいじめが起り得ることが実感できたと思う。縦割り班の活動は、学級を超えて全校でいじめ防止について考える場となり、学校一丸となって取り組んでいるという意識を高めることができた。また、校内の様々な場所に「能代東中学校いじめ0宣言」の標語が掲示されることで、生徒たちがいじめのない学校を自然に意識できている。

5 今後の課題

全校生徒で、いかに話し合いを活発化させ、内容を深めていくかの手立てについては、まだ改善の余地がある。考えさせる事例の精選や話し合いの視点の明確化など、工夫していきたい。また、集会での話し合いや作った標語が日常生活につながるような取組も考えていきたい。

学 校 名	秋田市立山王中学校	児童生徒数	537人	学級数	20
-------	-----------	-------	------	-----	----

1 活動名 いじめの未然防止に向けて～いじめを生まないあたたかい環境づくり～

2 活動の趣旨

本校の生徒会では、いじめの未然防止として、あたたかい環境（学校・学級）づくりを目指した取組を行っている。全校生徒がいじめについて正しく理解し、誰もが安心して学校生活を送ることができるよう、いじめを生まない学校の風土をつくる活動に取り組んでいる。

3 活動の概要

(1) いじめ防止集会

生徒会執行部が中心となり、新しい学級での生活に慣れてきた5月に行った集会である。主な内容は、「いじめとは何か」を理解することと、「秋田市中学生絆宣言」の意義を確認することである。この集会を通して、いじめは人の心を壊し、尊厳を傷つけるものであり、いじめという選択をしてはならないということ全校で再認識するとともに、いじめのない学校づくりのために個人や集団として何を心掛けるべきかを考えるよい機会となった。



【いじめ防止集会の様子】

(2) 思いやりキャンペーン

正副委員長会（学級委員長・副委員長）を中心として行った活動である。日常生活の中でのクラスメイトの「思いやりある行動」を生徒一人一人が見付け、期間中は毎日各学級の帰りの会で発表した。また、学年棟にその内容を掲示することで学年全体でも共有できるようにした。この活動を通してクラスメイトの思いやりある行動に目を向けることができるようになるとともに、自らの言動を見つめ直すきっかけにもなり、お互いを思いやる姿が多く見られるようになった。

(3) ピンクシャツデー運動

正副委員長会を中心として行った活動である。「ピンクシャツデー」とはピンク色のシャツを着たり、ピンク色のものを身に付けたりすることで、「いじめ反対」の意思表示をする日である。本校では、生徒一人一人が「いじめのない学校づくりのために、今自分ができること」を考え、宣言としてピンクシャツをかたどった用紙に記入したものを作成した。その宣言を日替わりで学級目標として掲示したり、2月のピンクシャツデー当日に全員が用紙を胸に付けて過ごしたりすることで、全校生徒が連帯感をもっていじめのない安心・安全な学級づくりを強く意識して生活することができた。

4 これまでの成果と考えられること

- ・生徒がいじめについて正しく理解し、その問題点について認識することで、自分事として考えながら活動に取り組むことができるようになった。また、いじめのない学校・学級は自分たちがつくっていくものだ、という意識が高まってきている。
- ・日常の中にある「思いやりある行動」を取り上げることで、生徒がお互いのことを考え、相手を思いやることの大切さを改めて感じられるようになってきた。また、これまで以上に思いやりのある行動を実践しようとする生徒が増えてきている。

5 今後の課題

今後も、いじめの未然防止につながる生徒主体の活動を継続していくことで、「いじめを許さない」という意識を薄れさせないようにする必要がある。また、これまでの活動を継続するだけでなく、生徒がより主体的に考えて活動に取り組んだり、実践意欲を高めたりすることができるような工夫を取り入れ、学級・学年の枠を越えて学校全体としてのいじめを生まない風土づくりをしていきたい。

学 校 名	由利本荘市立大内中学校	児童生徒数	151人	学級数	8
-------	-------------	-------	------	-----	---

1 活動名

「つながり」を意識し、互いを認め合い、協力し合う関係づくり

2 活動の趣旨

本校生徒会では、自ら進んであいさつすることを今年度の基本方針の一つとして掲げ、生徒一人一人が心を開き、明るくあいさつが響く学校づくりを進めている。また、互いに認め合い、助け合える人間関係の構築を目的とし、生徒同士の交流を活発にすることにも力を入れている。これらを実現することで、よりよい人間関係が形成され、いじめの未然防止につながると考えられる。そのために、学年や学級の枠を越えて生徒同士がつながり、意見を交わし、共に協力し合えるような活動に取り組んでいる。

3 活動の概要

(1) あいさつ運動「グリーティング・アクティビティ（通称GA）」

「GA」とは、生徒会事務局と生活委員会が日常的に行っている朝のあいさつ運動とは別に、各学級が担当する週ごとに行う、全校生徒によるあいさつ運動である。互いに爽やかなあいさつを交わすことのよさを味わい、自然にあいさつし合える関係づくりを目指している。年度の最初のGAでは、1年生は2・3年生と一緒にあいさつを行い、「あいさつ日本一」を目指す大中学生としての意識を高めることができた。活動後は、「ぜひGAを続けてほしい」という生徒からの声があった。

(2) 大中ミーティング

大中ミーティングは、各教室をZoomでつなぎ、画面を通して行う全校集会である。議題に対する各学級の意見交換や、専門委員会が主催するテーマ集会を行い、コロナ禍で全校生徒が一堂に会することが難しい中でも、全校のつながりを意識することができた。

(3) 学年縦割りの団による運動会

5月に行われる運動会は、全校生徒を学年縦割りの四つの団に分け、学年を越えて力を合わせる機会となっている。特に、団に所属する全員で行う「エール合戦」は、各団の協調性が最も必要とされる種目である。エールの内容は各団の3年生が考えて1・2年生に伝達されるが、動きを上級生が下級生に丁寧に教えることを通して、異学年同士の信頼関係を築くことができている。また、各団が一体感のある演舞を披露し合うことで、他の団に対しても認め合う雰囲気が生まれ、生徒一人一人の自己有用感が醸成されている。



【1年生にエールを教える3年生】

4 これまでの成果と考えられること

あいさつを大切にする活動を通して、よりよいあいさつのためには相手の気持ちに寄り添う必要があることに気付き、実践しようとする意欲が高まっている。また、他の学級や他の学年と関わる活動を通して、それぞれの考えや立場を尊重しようとする言動が見られる。3年生は、行事等で全校をリードする役割を果たすことで、1・2年生が活動しやすいように気を配るという意識が身に付いている。1・2年生はその姿を見て、人とのつながりの大切さを学びとっている。これらの取組を通して、今後も大中学生のいじめ未然防止が図られていくものと考えられる。

5 今後の課題

よりよい人間関係の構築の大切さを理解しながらも、言葉や行動で表すことに迷いを感じている生徒が多い。全校生徒で意見を出し合い、具体的な行動目標を策定する取組も必要である。

学 校 名	大仙市立協和中学校	児童生徒数	85人	学級数	3
-------	-----------	-------	-----	-----	---

1 活動名

All for one 運動 及び パープルリボン運動

2 活動の趣旨

この運動を通して、いじめ撲滅（しない・させない・知らせる）の意思統一を図ったり、各自の決意を確認したりすることで、いじめの抑止力とする。

3 活動の概要

- (1)年2回（4月、11月）の生徒総会において、生徒会執行部の活動として提案し、活動の趣旨や内容等を確認し、取組に対する共通理解を図る。この活動は令和3年度後期から開始しており、2年目に入っている。
- (2)生徒一人一人は「誓いカード」を作成し、具体的な行動目標を表明する。「誓いカード」は次のとおりである。

私は、協和中学校の生徒の一人として、

- (1) いじめをしません。
- (2) いじめを見逃しません。

そのために、次のような行動を誓います。

【生徒の記載内容】

- 「自分自身がされていやな言動は絶対にしない」
- 「困った人がいたら、できるだけ話しかける」
- 「何かもめたとしても、その場で話し合っ解決する」



【パープルリボンが入った教職員のネームカードを紹介する生徒】

作成した「誓いカード」は、日常生活で自分の行動目標の意識付けのために、各教室に掲示している。

- (3)毎月末に行われるいじめ悩み調査の前に自分の行動目標を確認して、自分の行動について振り返ったり、行動目標を見直したりしている。
- (4)パープルリボンは名札の左隅に付け、いじめ防止への意思表示をしている。前期までは生徒のみの活動であったが、後期からは活動の広がりを目指し、教職員のネームカードをパープルリボンが組み込まれたものに変更した。

4 これまでの成果と考えられること

- ・一つ一つの活動だけでは、「書いただけ」「リボンを付けただけ」になりかねないが、「誓いカード」、「パープルリボン」、「いじめ悩み調査での確認」の三つの活動を連動させたことによって、生徒の「いじめをしない・させない・知らせる」という意識が醸成されている。
- ・4月の生徒総会において「全校で取り組む意義」について共通理解したことが効果的な活動につながった。

5 今後の課題

- ・本校では大きないじめ事案は発生していないが、からかいや冷やかし、うわさ話などいじめにつながりかねない事案が散見される。こうした事案に対しても、自分の行動を見直す機会となるような取組にしていく必要がある。
- ・月1回の振り返りの場が形骸化しないよう、生徒一人一人が自分の言動を見つめ直したり、この取組による成果を生徒が実感できるような振り返りの場面を設けていく必要がある。

学 校 名	美郷町立美郷中学校	児童生徒数	405人	学級数	14
-------	-----------	-------	------	-----	----

1 活動名 「美郷中学校いじめゼロ6箇条」の策定及び活用

2 活動の趣旨

本校の生徒会では、生徒会執行部が中心となって「いじめゼロ6箇条」を策定し、いじめ防止に活用している。いじめは決して許されないことであることを生徒自身が自覚し、その防止に生徒が主体的に取り組むことにより、高い自治効果が期待される取組である。

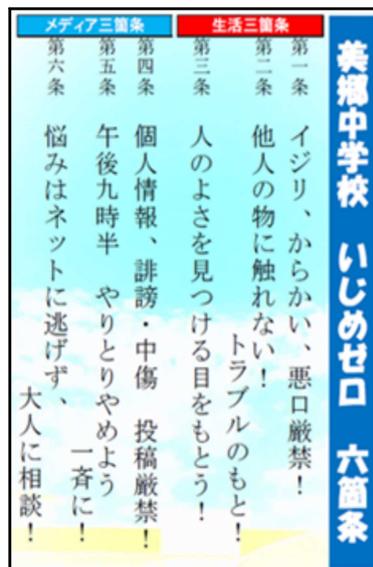
3 活動の概要

(1) 全校生徒への周知徹底

新年度最初の生徒総会で、生徒会長が「いじめゼロ6箇条」（以下、6箇条）を提示して全校生徒に周知する。新入生にとっては初めて触れる活動であるため、本校はいじめを絶対に許さないことや、この6箇条が守られないことで起こりうる問題などを丁寧に説明する。また、生徒総会後には、この6箇条を印刷して額に入れ、生徒会執行部が全学級に掲示を依頼する。さらに、9cm×6.5cmに縮小印刷したものを全校生徒に配布して、全員が生活記録ノートに貼るように呼びかけている。

(2) 学年生徒会との連携

生徒会執行部が6箇条について全校に周知した後、各学級の委員長で構成している学年生徒会が主体となって、それを守るための取組を行っている。まずは、学級委員長が各学級でアンケートを実施する。「いじめゼロ6箇条を守ることができたか」という内容で、項目ごとに守ることができたかどうかを振り返るようになっている。毎月1回の実施を継続している。アンケート用紙の配布は学年生徒会で行うが、自由記述欄に慎重に取り扱う必要がある内容が含まれることがあるため、記入後は学級担任に提出することとなっている。アンケートで気になる記述があれば、学級担任が記入者に聞き取りをするなど、いじめの防止とともに、いじめにつながりそうな事案の早期発見に役立てている。また、アンケート結果を学年生徒会担当の教師が数値化し、学級委員長はその数値を参考に自分の学級の問題点を把握して、改善を呼びかける活動を行っている。



【いじめゼロ6箇条】

4 これまでの成果と考えられること

6箇条を意識して生活することにより、相手を気遣うことのできる生徒が増えた。生徒会長が中心となって粘り強いいじめ防止を呼びかけた成果である。また、生徒会執行部と学年生徒会が協力して行うことで、よりきめ細かな対応が可能となった。自由記述欄から教師が生徒の小さな変化にもすぐに気付き、問題に迅速に対応することができた事案もある。

5 今後の課題

メディア使用に関する条項は、「守ることができた」と答える生徒の割合が100%にならないことがある。しかし、昨今の生徒指導事案はSNS等で発生している場合が多く、情報リテラシーに対する意識の向上を図るための取組が更に求められる。生徒会報等を活用して、家庭との連携を更に強めていきたい。

【高等学校】

(中・高校生用)

秋田わか杉っ子 いじめゼロに向けた五か条

- 一 私たちは、いじめが人権を侵害する許されない行為であることを理解し、絶対にいじめを行いません。
- 二 私たちは、いじめを見過ごさず、友人や信頼できる人と力を合わせて、いじめの根絶に向けて行動します。
- 三 私たちは、思いやりの心を大切にし、他人の喜びや心の痛みをその人の身になって感じたり考えたりします。
- 四 私たちは、一人一人の違いを認め、自分も相手もかけがえない存在として尊重します。
- 五 私たちは、生活習慣や文化、価値観の異なる人々とも積極的に交流し、社会を支える一人になります。

学 校 名	秋田県立大曲工業高等学校	児童生徒数	377人	学級数	12
-------	--------------	-------	------	-----	----

1 活動名

大工 生徒会によるいじめ未然防止に向けた取組

2 活動の趣旨

本校生徒会は、生徒一人一人が高校生としての自覚を確立し、自発的な集団活動を通して規律を重んじ、自ら計画・行動する態度を育むことを目指し、全校生徒が協力し合い生徒会活動や学校行事等に取り組んでいる。また、自他の人格を尊び、豊かな情操を身に付けることができる様々な活動を通して、いじめ未然防止に向けた実効的な取組に繋げている。

3 活動の概要

(1) いじめ防止啓発ポスター

9月初めに各クラス担当がポスター制作の趣旨について説明を聞き、制作を始めた。10月後半の学校祭（2日間）で、全クラスの作品を掲示し、全校生徒や保護者が鑑賞した。学校祭終了日には、Google Formsで生徒や教師にアンケートを実施し、後日優秀な作品を発表・表彰した。



【いじめ防止啓発ポスター】

(2) いじめ防止啓発標語

7月に、全校生徒からいじめ防止啓発標語を募集し、各学年で優秀な標語を選定し、学校内に掲示したり、ホームページや生徒会報でも取り上げたりして紹介した。

(3) 朝のあいさつ運動

年に3回（5月・7月・9月）、保護者（PTA役員・クラス委員）と職員・生徒（総務部職員・生活局員）により実施した。コロナ禍のため、校内2か所に分けて実施し、登校時の生徒への声かけを通して、生徒の様子等を観察した。

4 これまでの成果と考えられること

生徒会執行部が主体となっていじめ防止啓発ポスターなどの取組を行うことで、いじめ未然防止に向けた意識が高まるとともに、思いやりの心をもち他者を認め、自己を理解する気運が高まってきたと感じられる。ポスターや標語は、生徒会執行部のアイデアで文化祭の期間だけでなく生徒玄関に掲示しており、生徒へのいじめ未然防止を促し意識付けに役立っている。

5 今後の課題

今後も現在取り組んでいる活動を継続させていきたい。また、全校生徒がいじめのない明るく充実した学校生活を送ることができるように、他校の例を参考にするなどして、いじめを許さない、見過ごさない学校の雰囲気づくりを進めていきたい。そして、生徒一人一人が自分のこととして考え、自ら活動できる適切な集団づくりに努め、生徒が積極的・自発的にいじめ未然防止に取り組む、実効的なものとなるように今後も工夫・改善を図っていきたい。

学 校 名	秋田県立六郷高等学校	児童生徒数	149人	学級数	9
-------	------------	-------	------	-----	---

1 活動名

いじめ防止標語コンテスト

2 活動の趣旨

本校の風紀委員会では、いじめ防止標語コンテストを案内し実施している。全生徒がいじめ防止の標語を考え応募し、優れた標語に投票を行い、表彰するものである。いじめは人として絶対に許されないことであることを一人ひとりの生徒に意識させることを目的としている。いじめは、いじめる生徒といじめられる生徒だけの問題だけでなく、いじめをはやし立てる行為や傍観する行為もいじめることと同様に許されないことであるという認識をもたせることにより、いじめの根絶を目指している。

3 活動の概要

生徒会、風紀委員会が中心となって、いじめ防止標語コンテストを実施している。

(1) 目的 いじめ根絶を目指す一環として、生徒が主体的にいじめ防止につながる標語を考え、実行に移そうと心掛けるきっかけにする。

(2) 対象 1、2年生

(3) 日程 2 / 1 応募用紙配付（各学級の風紀委員が配付する。）

2 / 7 応募用紙締切（生徒会、風紀委員会が各学級2作品を選出する。）

2 / 10 優秀作品候補10作品を全生徒へ公開し、投票を行う。（全生徒が一人3作品を選び投票する。）

2 / 14 投票締切・集計（風紀委員会が投票を集計し、3作品を選出する。）

(4) 表彰 最優秀賞1作品、優秀賞2作品

（賞状授与、副賞：図書カード）

休業前の賞状伝達式にて表彰する。

(5) 掲示 表彰作品を1年間、廊下に掲示する。

4 これまでの成果と考えられること

生徒が安心して学校生活を送れるように、いじめ根絶を目指す一環として、生徒が主体的にいじめを防止するための標語を考えることで、いじめを防止するための行動に移すきっかけとなっている。

5 今後の課題

毎年行っていることが単なる学校行事で終わることのないようにしていきたい。生徒がお互いのよさを認め合える人間関係づくりといじめ根絶を目指すためにこれからも学校全体として取り組んでいきたい。



【優秀作品の掲示の様子】

【特別支援学校】

学 校 名	秋田県立ゆり支援学校	児童生徒数	113人	学級数	17
-------	------------	-------	------	-----	----

1 活動名

全校児童生徒による交流活動「交流タイム」

2 活動の趣旨

対人関係の構築が苦手な児童生徒が多い中、いじめ防止の素地づくりや互いの個性を認め合う観点から、小学部・中学部・高等部児童生徒を五つの交流グループに分けて、学部の枠を超えて相手を知ったり、仲良くなったりする交流活動「交流タイム」を年間を通して設定した。

3 活動の概要（第1回：7月12日 第2回：8月30日 第3回：11月22日）

各交流グループの進行係は、代表委員（生徒会役員と高等部の学級委員長）の2名とした。交流グループの中に、各学部の児童生徒で構成する4～5名の小グループをつくり、年間を通して同じグループで活動した。計3回の活動の内容は、クイズとダンスで統一することにした。

(1) 第1回交流タイム

小グループでのクイズやダンスなどの分かりやすい活動を通して、児童生徒の関わり合いが見られた。また、重度の障害のある児童へ関わろうとする姿もあった。代表委員からは、次回に向けた改善点として、クイズの内容をより簡単にすることや名札を着用することなどが挙げられた。

(2) 第2回交流タイム

事前に小学部児童を対象に、好きな給食についてのアンケートを実施し、児童がクイズの答えを考えたり答えたりしやすいようにしたことで、前回に比べて、小グループ内の児童生徒が一緒に話し合う姿が見られた。次回に向けた改善点として、各学部の児童生徒を対象に実施したアンケートの結果や動きを取り入れたクイズにすること、教師や生徒がダンスの演示を行うことなどが挙げられた。

(3) 第3回交流タイム

児童生徒へのアンケート結果や誕生日をクイズにししたり、片立ちの秒数を競う活動を取り入れたことで、グループ内の関わりや話し合う姿が多く見られた。また、ダンスは、児童生徒が振り付けを覚えている学校祭のテーマ曲を取り入れたことで、グループで楽しみながら踊ることができた。



【〇×クイズで正解した児童と生徒】

4 これまでの成果と考えられること

年間を通して同一の少人数のメンバーによる活動としたことや、主な内容をクイズとダンスで統一したことにより、児童生徒は戸惑うことなく活動に参加している。小学部から高等部までの児童生徒が、グループ内のメンバーの名前や特徴を覚えて関わり合うようになっている。また、小学部児童は中・高等部生徒を慕い、中学部生徒は高等部生徒の話し方や動き方を見ながら、小学部児童に合わせた話し方をし、高等部生徒は小・中学部児童生徒に理解・表現しやすい聞き方や話し方をする姿が、活動を重ねるごとに多く見られるようになっている。

5 今後の課題

縦割りの交流活動を工夫しながら実施し、様々な考えや意見を出し合える自由な雰囲気のもと、児童生徒が自分と相手の違いに気付き、相手に応じて関わり合う姿が見られたことは、いじめを未然に防ぐために有効であったと考える。今後も交流活動を継続していく中で、活動のねらいを明確にするとともに、児童生徒個々のねらいを焦点化し、手立てを工夫していく必要がある。



大館市立成章小学校



北秋田市立鷹巣中学校



潟上市立出戸小学校



能代市立能代東中学校



湯沢市立皆瀬小学校



秋田市立山王中学校



羽後町立西馬音内小学校



美郷町立美郷中学校



県立大曲工業高等学校